

基安労発0726第1号
令和元年7月26日

都道府県労働局労働基準部健康主務課長 殿

厚生労働省労働基準局
安全衛生部労働衛生課長
(公 印 省 略)

平成30年に発生した酸素欠乏症等の労働災害発生状況について

酸素欠乏症等防止規則（昭和47年労働省令第42号）に定める酸素欠乏危険作業等において発生した酸素欠乏症又は硫化水素中毒（以下「酸素欠乏症等」という。）について、平成30年に発生した休業4日以上労働災害発生状況等を別紙1に、また、酸素欠乏症等による災害の事例を別紙2に、それぞれ取りまとめたので、関係事業者等に対する指導等の参考とされたい。

なお、酸素欠乏危険作業以外でも温泉貯湯タンク内における作業の硫化水素中毒防止対策の徹底については、平成27年3月30日付け基安労発0330第2号により通知しているので、関係事業場等に対する指導等に当たっては留意されたい。

酸素欠乏症等の労働災害発生状況

1 酸素欠乏症等の労働災害発生状況（平成元年～平成 30 年）

(1) 酸素欠乏症

平成 30 年の酸素欠乏症による労働災害は、6 件（前年比 1 件増）であり、被災者は 7 人（前年比 2 人増）、うち死亡者は 6 人（前年比 1 人増）であった。

過去 20 年間（平成 11 年～平成 30 年）の労働災害は計 142 件であった。

(2) 硫化水素中毒

平成 30 年の硫化水素中毒による労働災害は、5 件（前年比 2 件減）であり、被災者は 10 人（前年比 3 人増）、うち死亡者は 4 人（前年比 2 人増）であった。

過去 20 年間（平成 11 年～平成 30 年）の労働災害は計 68 件であった。

表 1 酸素欠乏症の労働災害発生状況（平成元年～平成 30 年）

年		元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
酸素 欠乏症	発生件数	14	16	20	13	13	16	14	13	15	17	7	17	12	7	5
	被災者数	26	23	30	20	17	22	23	22	25	28	9	21	15	10	5
	死亡者数	9	10	16	12	8	8	14	10	8	9	3	10	7	7	3

年		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28*	29	30
酸素 欠乏症	発生件数	10	8	11	9	6	3	2	2	6	5	1	9	11	5	6
	被災者数	11	9	12	11	8	6	3	2	7	7	1	9	13	5	7
	死亡者数	2	4	9	5	5	4	3	2	5	3	0	6	4	5	6

備考：被災者数は死亡者数を含む。

*平成 28 年の発生件数等は新たに判明したものを反映したものである

表 2 硫化水素中毒の労働災害発生状況（平成元年～平成 30 年）

年		元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
硫化水素 中毒	発生件数	4	5	2	6	3	6	4	8	3	5	6	3	5	7	2
	被災者数	6	10	2	11	8	12	8	13	5	7	13	7	7	18	2
	死亡者数	2	1	1	2	7	2	1	4	0	2	6	6	1	15	0

年		16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
硫化水素 中毒	発生件数	2	2	3	1	3	1	1	2	3	5	4	4	2	7	5
	被災者数	4	3	3	1	3	3	1	3	4	10	6	5	3	7	10
	死亡者数	3	0	2	0	2	0	0	1	2	6	2	1	0	2	4

備考：被災者数は死亡者数を含む。

図1 酸素欠乏症の労働災害発生状況の推移（平成元年～平成30年）

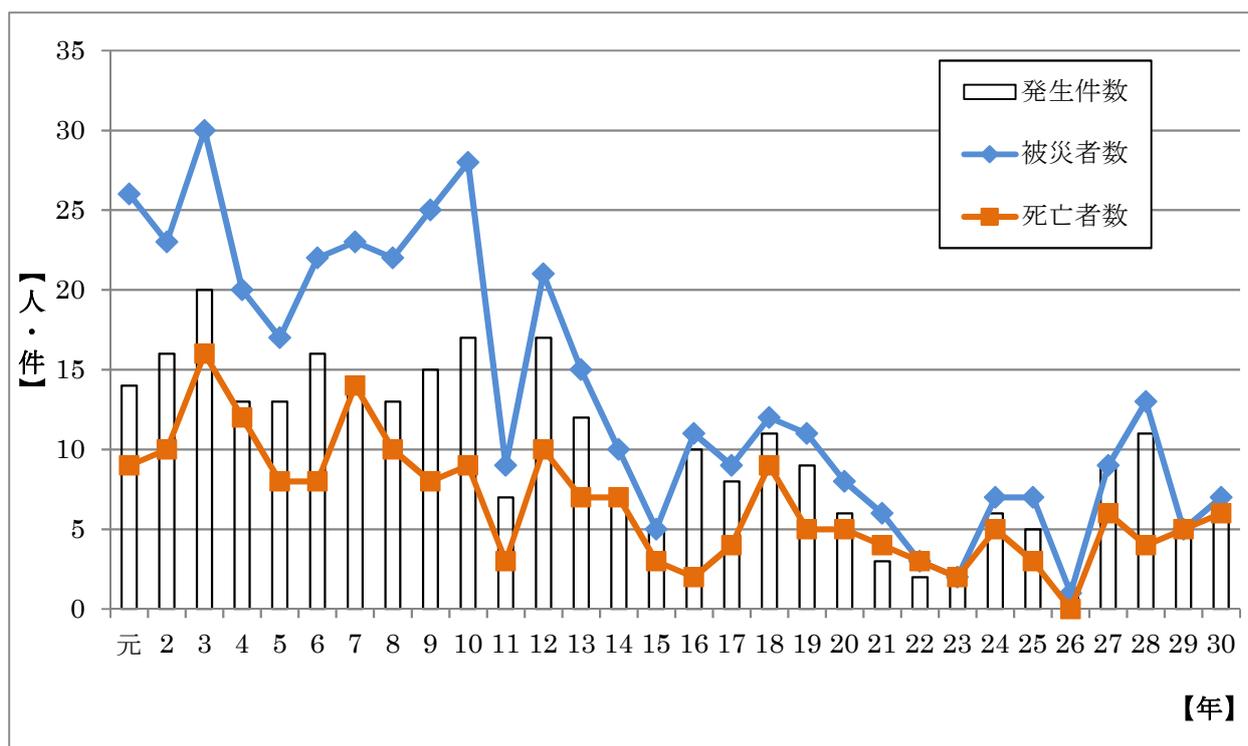
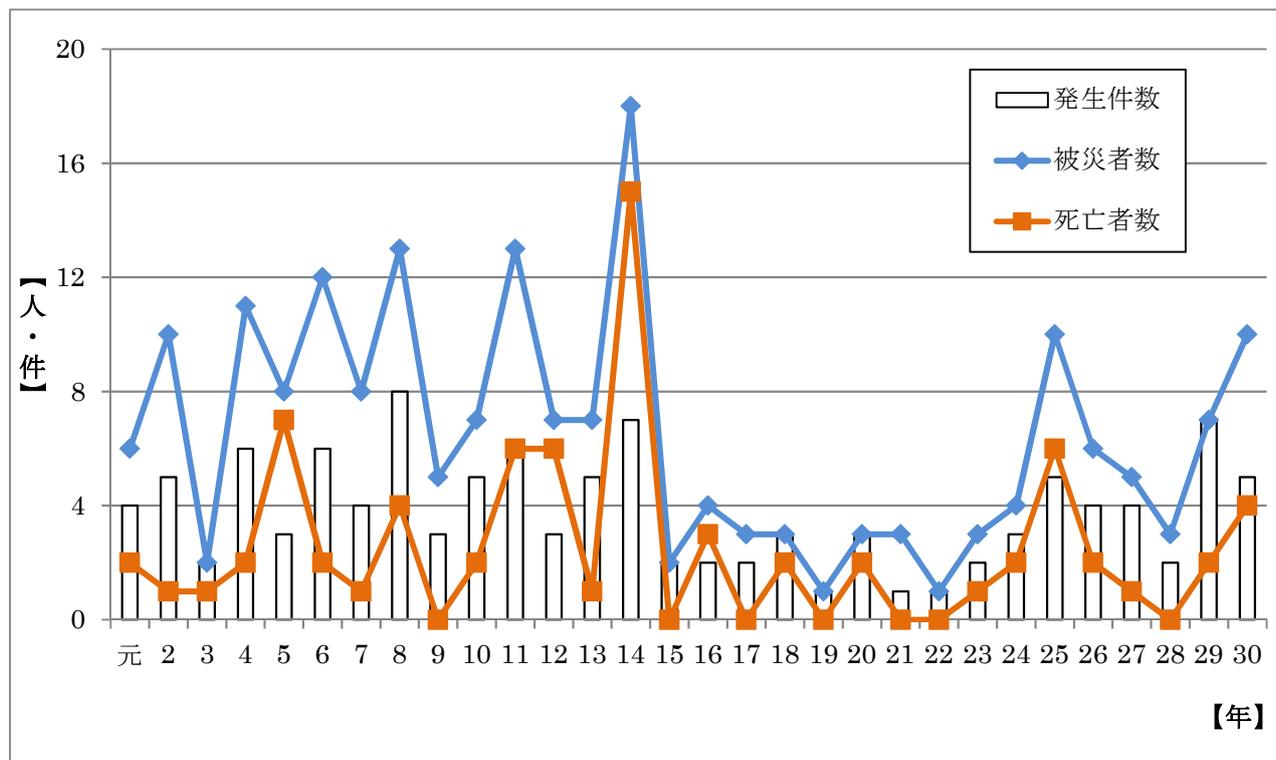


図2 硫化水素中毒の労働災害発生状況の推移（平成元年～平成30年）



2 酸素欠乏症等の業種別発生状況（平成 11 年～平成 30 年）

(1) 酸素欠乏症

過去 20 年間の業種別発生状況をみると、製造業が最も多く、次いで建設業であり、この 2 業種で全体の約 7 割を占めている。

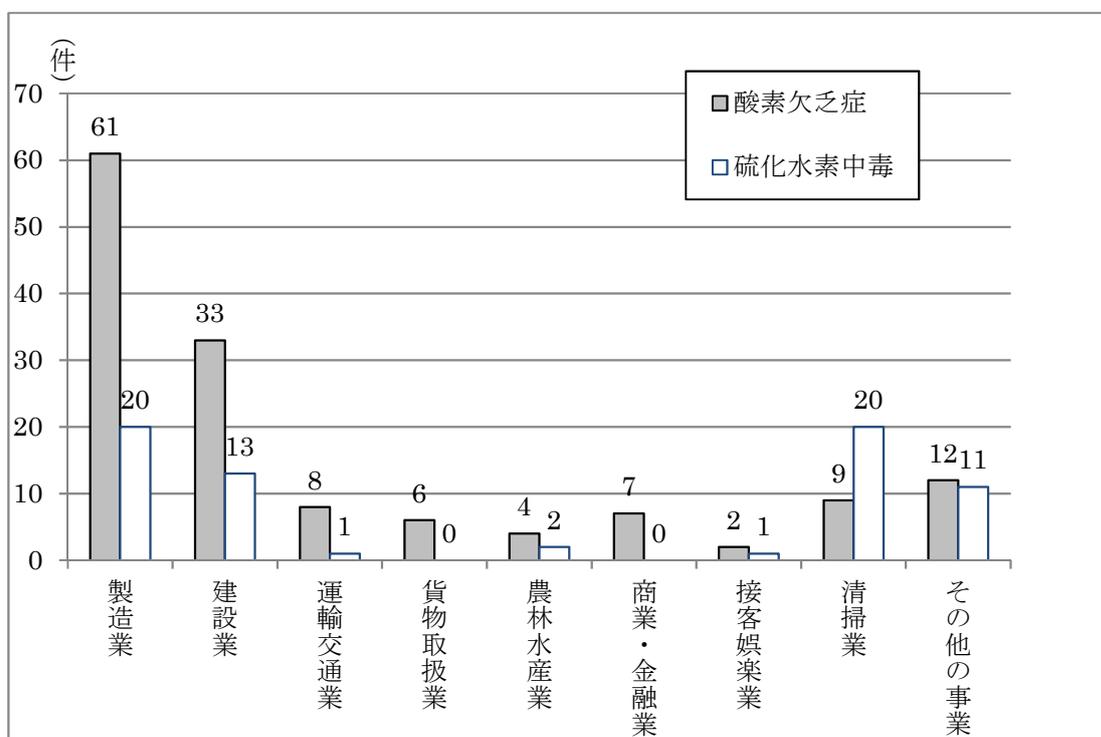
(2) 硫化水素中毒

過去 20 年間の業種別発生状況をみると、製造業、清掃業、建設業の順に多く、この 3 業種で全体の約 8 割を占めている。また、上位 2 業種でも全体の約 6 割を占めている。

表 3 業種別発生状況（平成 11 年～平成 30 年）（件）

	製造業	建設業	運輸交通業	貨物取扱業	農林水産業	商業・金融業	接客娯楽業	清掃業	その他の事業	計
酸素欠乏症	61	33	8	6	4	7	2	9	12	142
硫化水素中毒	20	13	1	0	2	0	1	20	11	68
計	81	46	9	6	6	7	3	29	23	210

図 3 業種別発生状況（平成 11 年～平成 30 年）



3 酸素欠乏症等の月別発生状況（平成 11 年～平成 30 年）

(1) 酸素欠乏症

過去 20 年間の月別発生状況をみると、発生件数が多い月は、10月の 20 件、7月の 19 件である。

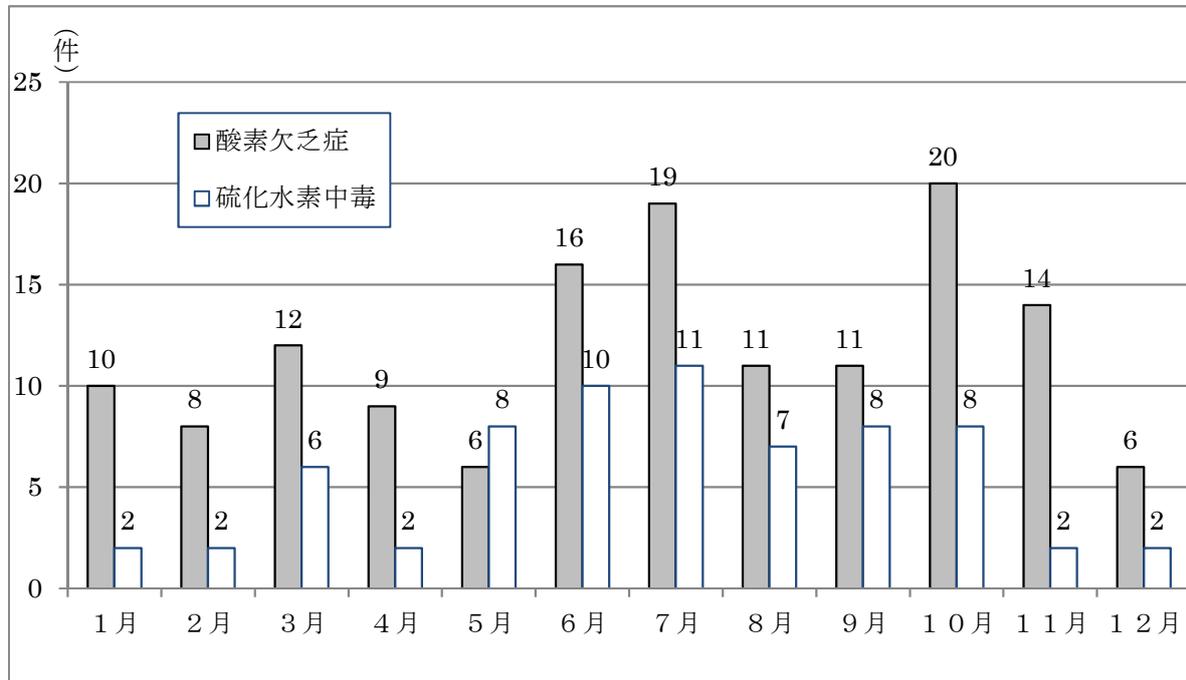
(2) 硫化水素中毒

過去 20 年間の月別発生状況をみると、発生件数が多い月は、7月の 11 件、6月の 10 件である。

表 4 月別発生状況（平成 11 年～平成 30 年）（件）

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
酸素欠乏症	10	8	12	9	6	16	19	11	11	20	14	6	142
硫化水素中毒	2	2	6	2	8	10	11	7	8	8	2	2	68
計	12	10	18	11	14	26	30	18	19	28	16	8	210

図 4 月別発生状況（平成 11 年～平成 30 年）



平成30年に発生した酸素欠乏症の事例

番号	業種	発生月	被災者数(人)		発生状況
			死亡	休業	
1	保健衛生業	2月	1	0	温泉旅館で猫を救出しようと遺構に立ち入ったところ、突然ふらついて意識を失い、翌日搬送先の病院で死亡したものの。
2	清掃業	3月	1	0	破砕機ホッパー内に入り、異物除去作業を行ったが、作業を終えて梯子を上りかけたところで倒れたもの。
3	製造業	4月	1	0	コークス工場の循環ファンダクト外部で片付け作業中、窒素が充填されたダクト内部に誤って立ち入り、被災、死亡したものの。
4	製造業	5月	0	1	分割台船を補修する作業において点検口を開けて梯子を下り、台船の内部の点検を終えた後、外部に出るため梯子を上っている途中、急に意識を失ったもの。
5	製造業	10月	2	0	台船の船内に溜まった水を排出する作業をしていたところ、意識を失い、助けに入った同僚も意識を失った。2名とも溜まった水で溺死したものの。
6	製造業	11月	1	0	プラント内の処理缶に活性炭を粉体ポンプの使用により仕込む作業中に、処理缶の開いたマンホールに上半身を入れて意識不明の状態となり、後に発見されたが死亡したものの。

備考

- ・ 「休業」は、休業4日以上のものである。

平成 30 年に発生した硫化水素中毒の事例

番号	業種	発生月	被災者数(人)		発生状況
			死亡	休業	
1	清掃業	4月	0	3	温泉槽の清掃のため、梯子を使ってタンク内の一番下まで降りたが、タンクが暑いため戻る途中で梯子を踏み外して落下した。気分が悪く助けを求めたが、内部に助けに入った作業員1名と、タンクの開口部で送風機を持ち内部に送風していた作業員1名も気分が悪くなり救急搬送されたもの。
2	清掃業	5月	0	2	P E T ボトルリサイクル工場内にて、洗浄ライン用給水タンクの内部で清掃を行っていたところ、硫化水素を吸い込み被災したもの。
3	製造業	6月	3	0	原料を調整するピットに異物が混入していたので、異物除去のため一人がピットに下りたところ梯子の途中で昏睡し転落した。連絡を受け救出のためピット内に下りた2名の作業員も同様に被災したもの。
4	建設業	10月	0	1	市場内で雑排水系統の詰まりを高圧洗浄車で洗浄した後、生じた油塊をバールで取ろうと枡内に入り一度枡から上がった直後、後向きに倒れ枡内に落下したもの。
5	製造業	10月	1	0	汚水処理を行う浄化槽の異常を知らせる装置が点灯したため、原水槽の蓋を開けてポンプの不具合を確認、チェーンを使って汚水吸出しのポンプ位置を調整する作業を行おうとしていたところ、原水槽内に転落し死亡したもの。

備考

- ・ 「休業」は、休業4日以上のものである。